

「初秋の八島湿原 (4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

私は、日本有数の高層湿原であり、学区術的にも貴重な八島ヶ原湿原の地形に非常に興味を持った。地形を最も直感的に捉えられる方法として、「立体視」がある。わずかにずれた位置から撮影された航空写真を国土地理院から入手し、立体視画像を作成してみた。

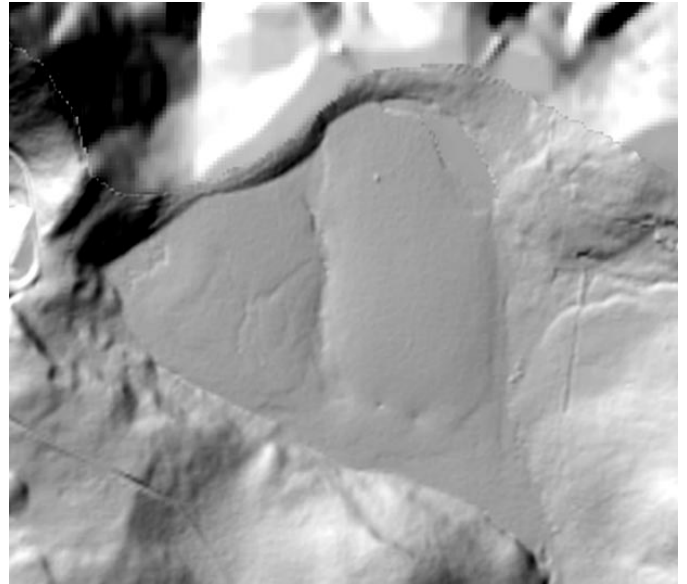
立体視には「平行法」と「交差法」の2種類がある。人によってどちらが得意か異なる。私は「平行法」が得意だ。平行法の視線で見ている人が、交差法の画像を見ると、地形の凹凸が正反対になるのが面白い。

このページには平行法の画像、2ページ目に交差法の画像を掲載した。湿原の底面のA地点やB地点よりも、高地のG地点やF地点が出っ張って見える画像が、自分に適した立体視画像ということになる。

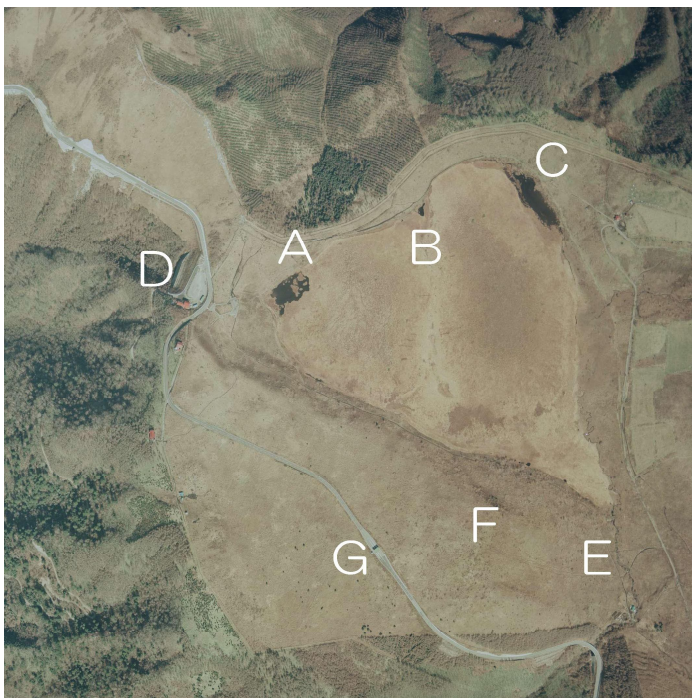
立体視で見ると、この湿原が非常に複雑な地形上に形成されたことが一目でわかる。まず特筆すべきは、ハート型の湿原全体が、枠のような地形に囲まれ、流入河川が1本もない点だ。湿原全体の集水面積が非常に狭い。北海道の摩周湖とよく似ている。

流出河川もEの小川のみである。つまり、この湿原の水分の供給源は、「湿原に降る雨水のみ」ということである。極めて貧栄養の水系と言えるだろう。

立体視画像では、地上の距離に比べて、高さが強調される。周囲の丘や谷が非常に切り立って見えるのは、その効果である。一番知りたかったのは、湿原そのものの高層化である。立体視画像は、そのわずかな盛り上がりもよくわかる。

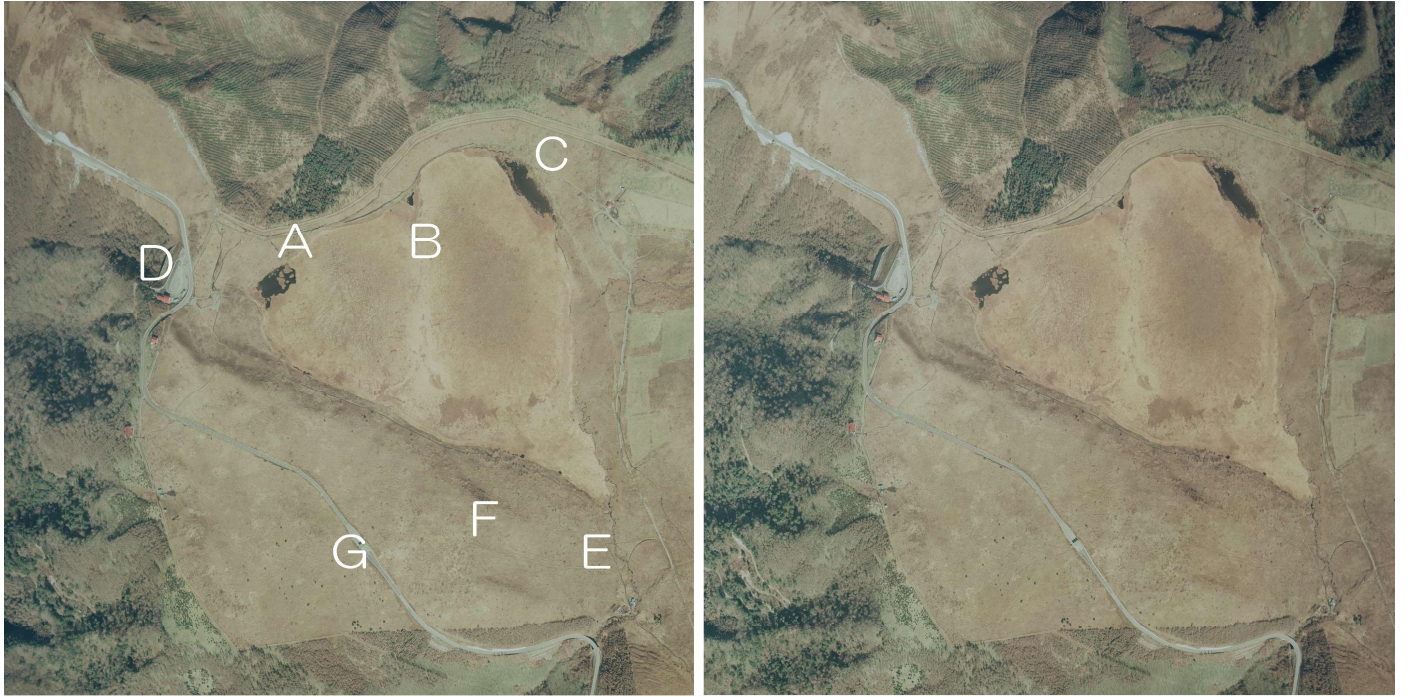


陰影を強調した地形データも作成してみた。湿原の中央に浅い「谷」があり、その左右の湿原が高層化している様子がよくわかった。



平行法の立体視画像
国土地理院提供、田中作成

A ; 八島ヶ池 B ; 鬼の泉水 C ; 鎌が池
D ; 駐車場 E ; 流出河川 F ; 1676 高地
G ; ビーナスライン (自動車道)



交差方の立体視画像

国土地理院提供、田中作成